

川辺高同窓会報

母校の活性化に向けて

― 母校の危機を思い ―



会長 前野 政 美
同窓会 前

各地区同窓会はもとより川辺の本部同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。平素より同窓会運営には格別なる御支援と、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも、会員の皆様のさらなる御指導と御協力をよろしくお願い申し上げます。

母校には、同窓会に出席しているそれぞれの私たちの思い出があります。同窓会はそういう思い出の箱をお互いに開きあつて懐かしむ場でもあります。旧制中や新制高校の校歌を歌う頃になると、どここの同窓会でも最高の三番に『星の光は変わらねど 人改まる丘の上』があります。開学以来今年の三月までに、一万九千六百十二人が母校を卒業しています。

さて、少子高齢化の現実がいたる所で話題になる昨今であります。公立高校の統廃合も着々と進んでいます。近くではすでに笠沙高校が廃校になり、県内ではいくつかの学校が統廃合されています。そして我が母校もここ数年、生徒募集に対する定員割れが続いています。我々の思いは一つ、「母校あつての同窓会」であります。各地区同窓会が一致協力して、何もかもうつちよいて必死で母校を守り続けなければなりません。母校は薩摩半島の中心部に位置し、川辺盆地の緑多き自然に囲まれています。校内には我々の心のよりどころであり、青春の熱き思いを語り合つた神戈陵があります。そんな母校を統廃合の対象にしたくありません。

同窓会会則第二条に『本会は会員相互の親睦を厚くし、会員と母校との関係を親密にし、一致協力して母校の発展と向上を援助することを目的とする。』と謳っています。その精神に基づき、創立九十周年では「財団法人神戈陵教育振興会の基金」を、百周年では、「神戈陵尚学舎」の建設・「育英奨学金」・「遠距離通学支援」等を主たる事業として実現して参りました。来るべき百十周年事業では「全館冷暖房設備の設置」ということで、前倒しで全館冷暖房を設置させていただき今年の七月より稼動しています。現在、生徒たちは冷房の下で一生懸命学習に励んでいます。

しかし、先述のような母校の存亡の危機にあたり、どうしても母校の状況を知って欲しいという思いから、八月九日(土)に各地区同窓会の会長または代理の方に母校へお出でいただき、会長会議を開きたいと考えております。またその場で、百十周年事業のご理解と推進のために、あらためて募金をお願いをする所存であります。

悠久の自然と長い歴史に支えられて、今の自分が生きている。人にこのことを深く感じさせ、考えさせる場所は故郷であり母校です。帰郷の際や来るべき百十周年には是非母校を訪ねてみてください。

最後に、同窓生の皆様への御健康と御発展をお祈り申し上げます。



新たな飛躍を目指して



義 博
長 中
校 田

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会には物心両面から母校活性化のために御尽力・御協力・御支援を賜り心から感謝申し上げます。三月一九九名の卒業生を送り出し、四月新入生百五十名（四学級）と新任九名の先生方を迎え入れ、生徒総数四六一名での新たな一〇八年目がスタートしました。

【川辺地区の状況】
「かごしま活力ある高校づくり計画―基本計画」

が策定され、その中で「四学級／八学級」を適正規模として高校再編がなされ、高校再編の波は地方に限らず、鹿児島市内（鹿児島西高・甲陵高）にも押し寄せています。川辺学区の生徒在籍数は、現高校一年生（九〇一人）、中学三年生（八八一人）、中学一年生（七三三人）、小学三年生（六七二人）と減少の一途を辿っています。現在の学区内高一年生の募集定員は一〇四〇人ですので、前記の九〇一名全員が公立高校を受験・入学したとしても定員は満たまりません。定員（二〇〇名）を満たさなくとも、何とか一六一名以上の新入生確保・学年五学級を維持したいものです。現在、生徒・保護者・地区から信頼され、「行き

たい学校」「行かせたい学校」を目指し、学校・PTA・同窓会が一体となつて生徒確保に努力しているところです。

【学校の現状】

同窓会の御支援・御協力と保護者の御理解のもと、生徒教室・職員室等に冷暖房空調が完備しました。生徒・職員を代表して心より感謝申し上げます。去る、六月十七日（火）前野同窓会長御出席のもと使用開始式を執り行いました。以来、真夏の暑さを忘れるような快適な学習環境のもと、生徒・職員一丸となって「文武両道」「夢実現・自己実現」に向かって頑張っています。

（一）進路状況

十九年度卒業生は国公立大学の鹿児島大学、熊本大学、長崎大学、宮崎大学、北九州大学、高崎経済大学、都留文科大学等、十五大学に四十三名合格しました。特に、近

年十名程度の合格であった鹿児島大学に二十二名の合格をみました。このことは、生徒も職員も「最後の最後まで諦めない」「神戈陵魂」を発揮してくれた証と思います。

（二）部活動

昨年度入部率を上回り今年度全体入部率は八十％超。県大会十四年連続金賞を目指して頑張っている音楽部。九州・全国大会出場の薙刀部。女子テニス部（県大会ベスト

明氏（第二十三回・昭和四十六年卒）・演題「島津齋彬と篤姫に学ぶ」。五月二十五日（日）第三十一回音楽部吹奏楽団定期演奏会。七月十一日（金）神戈陵祭（文化祭）が無事計画通り終了。

今後の行事として、九月六日（土）体育祭。十月十七日（金）三十三キロ遠行。十月十一日（金）第九回神戈陵塾。三月二日（月）卒業式が計画されています。

【終わりに】

創立百十周年に向けて各支部同窓会長様にも全体同窓会に御出会いたたく予定です。昨年度の財団法人神戈陵教育振興会の解散に伴い、新たに「神戈陵教育振興会」を設立し、「財団法人神戈陵教育振興会」と「同窓会」がこれまでに実施してきた「育英奨学事業等」を引き継ぐことになりました。この事業が末長く続いて欲しいものです。

（三）学校行事等

四月二十五日（金）学校創立記念日講演。松村英

東京同窓会

副会長
大坪 政弘
(昭和34年卒)

第三十二回総会・懇親会を平成二十年六月十四日(土)、九段会館にて開催しました。同窓会本部の前野会長、母校の田中校長、長野・藏前両教諭、そして恩師の永山先生にご出席頂きました。薩南工業高校同窓会関東支部長の川野様をはじめご来賓を含めて総数二百二十名強の出席者があつて、例年以上の大盛会となりました。

恒例の特別講演は、四十六年卒の松村英明さん(日本歴史文化研究所教授)が、「幕末徳川家の戦略と篤姫」を熱く語ってくださいました。NHKのドラマ「篤姫」の影響もあつたのでしょうか、会員の中から「もつと時間をかけて聞きたかった……」との声が多く聞かれて大好評でした。

同窓会本部の前野会長と田中校長から、郷里の南九州市や川辺高校の現況についてお話をいただきました。また、御二人与本会の本田雄郎会長が「川辺高校は二年後に創立百十周年を迎える。この機に後輩達に冷暖房設備のある教室で快適に勉強できる環境を！また魅力ある学校づくりに協力しよう！」と、近く始まる記念募金への協力を訴えられました。

懇親会では、九段会館心尽くしの料理に加えて、さつまあげや川辺の焼酎もあり、出席者はなつかしい味にニコニコ顔でした。

また、平成十八年〜平成二十年卒の若手会員に登壇してもらって一人ひとりと「将来の夢に向かつて頑張っています……」等の近況を伺いました。若々しい、また力強い話を聞いて、出席者の多くが自分が上京したての若い頃のことを思い出したのではないのでしょうか。

校歌合唱では、新校歌(あゝ悠遠の〜)に次いで旧校歌(高千穂笠沙〜)が大合唱となり、川辺高校百有余年の歴史を実感した瞬間でもありました。

今回も、当会顧問の川口幹夫さん(昭和十九年卒)、白石晃三さん(同)をはじめ大先輩方が多数出席して下さいました。なかでも出席者の中で最長老(昭和十六年卒)の遠矢典夫さんは、今年も元気に締めめの万歳三唱の音頭をとって下さいました。

今年の総会・懇親会は、本田会長以下我々幹事の数回にわたる準備会合は当然のこととして、昭和四十年卒(代表岡元克充君)と昭和五十年卒(代表内村哲也君)の両年度卒業同期の諸君が、企画・進行を担って見事なチームワークで会を成功させてくれました。感謝にたえません。



- 東京同窓会のここ一年の主な活動は次の通りです。
- ①幹事会 五回開催
 - ②評議員会 四月と十一月の二回開催。毎回四十数名の評議員にご出席頂いて諸々の決定や作業に当たって頂いています。
 - ③会報誌「神戈陵」の三十一号を発行。毎年このとですが、今年も十月に発行して会員へ配布した他、母校及び全国の同窓会へお送りしました。
 - ④薩南工業高校・吹上高校の在京同窓会や、川辺会、知覧会、加世田会等郷土総会に代表が来賓として出席しました。
 - ⑤例年通り、母校の卒業生に記念としてボールペンを贈呈しました。

関西同窓会

茶 園 義 文
(昭和44年卒)

二〇〇七年度川辺高校
関西同窓会は、九月十六
日(日)ハートンホテル心
斎橋にて三十七名の参加
者のもと開催されまし
た。ご来賓として四月に
着任された母校出身の田
中義博校長先生、前野政
美本部同窓会会長、高校
の同窓会事務局長の長野
守雄先生、そして恩師と
して柿本和義先生(昭和
四十六年から五十一年ま
で在籍・国語担当)の四名
の方々をお迎えすること
ができました。

足の紹介を中心に川辺高
校を取り巻く近況報告が
ありました。恩師の柿本
先生は三十歳代の意気盛
んな時期に、国語の大先
輩教師である芝原等先生

と机を並べて教鞭がとれ
た素晴らしいご体験をご
紹介下さいました。ま
た、長野先生には参加者
一人一人に名前と川辺高
校の座右の銘の入ったシ
オリを準備戴き、参加者
の皆さんには記念に残る
プレゼントになりました。

今回も参加者の

方々から、近況を
含めた一言をご紹
介戴くコーナーが
あり、多くの方々
からスピーチを戴
きました。特に、
十一月に母校で開
催される神戈稜塾
の講師として関西
同窓会代表で出席
される湯舟武男さ
ん(昭和三十四年
卒)と門園ふみ子
さん(昭和四十七
年卒)にも、ご活躍
の様子をお話戴き
ました。

宴たけなわの中、
集合写真撮影後、

全員で旧校歌および新校
歌を声高らかに斉唱し会
員の団結と融和がはかれ
ました。二次会は同じ
ハートンホテルの別の会
場にて開催され、カラオ
ケで大いに盛り上がりま
した。

今後、関西同窓会も若
手の参加と若返りが大き
な課題であり、種々工夫

を凝らしながら、継承・
発展して行けたらと感じ
ています。

最後になりましたが、
今後とも川辺高校関西同
窓会に対するご指導・ご
支援をお願いしますとと
もに、母校の益々のご発
展をお祈り申し上げま
す。

福岡同窓会

鶴 田 浩
(昭和55年卒)

高校卒業以来二十八
年、母校には不義理の生
活を送っている小生であ
ります。振り返ると、郷
里で育てられた時間より
もはるかに長い時間を、
この福岡の地で過ごして
いることに、改めて時の
経過を早く感じる年齢と
なつてまいりました。

さて、「世間は狭い」と
はよく言ったもので、小
生福岡市内の中学校に勤
務して二十数年になりま
すが、なんと、保護者が

我が母校川辺高校の先輩
という奇遇な出会いがあ
りました。それまでは、
離れた故郷は気になりな
がらも年配の方々ばかり
の会と思ひ、敷居の高か
った福岡同窓会に、怖い
先輩?(保護者)のたつ
てのお誘いもあり、参加
の機会が増えた次第であ
ります。

来福後、博多弁を気取
って話していた小生も、
ここ数年、十月の第三土
曜日には、いっぺこつべ



鹿児島弁で語いまくい、校歌や懐かしの応援歌を思い出しております。吹奏楽部だった小生は、最近の吹奏楽部が西部（九州）大会の常連校と聞くに及び、少々鼻高で、会への足取りも軽くなっております。やはりふるさととは、幾つになっても心のよりどころのようです。

ところが近年（小生が言うのもなんですが）、小生より若年代が疎遠になり、次の若手が平成十年代卒の方々となっている状況を危惧いたしております。各年代の絶え間ないつながりが、なお一層の福岡同窓会の発展につながるものと存じます。同窓会報をご覧の方、在福の同級生をご存知の方には是非この会の存在を教えてくださいませんか。お願いします。



最後に、事務局の方々のご尽力による毎会の盛況に感謝し、母校の益々の発展と福岡同窓会のこれからの盛会を祈念し、報告とさせていただきます。

宮崎同窓会

野元 隆志

（昭和51年卒）

平成二十年一月二十七日（日）、川辺同窓会宮崎県支部総会および懇親会が、宮崎市の宮崎リーガルホテルにおいて開催されました。当日は、母校と同窓会より森田副会長、宮園教頭、長野事務局長をお迎えし、二十余名の参加がありました。

平成元年に始まった宮崎同窓会も節目の二十回目を迎え、月日の早さを感じます。最近では集まるメンバーが固定化してきておりましたが大学生の参加も三回目となり今後、宮崎に集う同窓の方々にお声がけをし、他の支部に負けない盛んな会となるようにしなければとの思いを強く致します。

総会では大坪会長のご挨拶に引き続き、ご来賓より母校の現状、生徒の活躍などお話戴きました。宮崎は、東国原知事の誕生で一躍有名になりましたが、知事の活躍を含め、宮崎県中央保健所の芝原さんの鳥インフルエ

ンザ問題などのユーモラスなお話で、懇親会は大いに盛り上がりました。最後に旧校歌、新校歌の斉唱、万歳三唱し、来年の再会を誓いお開きとなりました。

最後に川辺高校のますますの発展をお祈り申し上げます。



川 辺 同 窓 会

原口 修一
(昭和60年卒)

毎年夏恒例の川辺高校同窓会総会が、平成十九年八月十一日「ひろ瀬」で盛大に開催されました。男性は昭和六〇年卒、女性には平成六年卒業生が担当幹事で当日に向けて数回にわたり話し合いを行



れました。

引き続き行われた懇親会では、サウンドメイツによる世界音楽めぐりメドレー等で盛大に会を盛り上げていただきありがとうございました。

今回の同窓会が盛大に開催できたのも同窓会事務局の先生方、各同窓会支部役員の皆様方のご尽力の結果であり、あらためて「神戈陵魂」の意気を感じたところ

です。

久しぶりに出会った同窓生や世代を超えた先輩方と母校の思い出話に華が咲いたことだと思いましたが、

宴の最後に、来年度幹事による力強い挨拶で同窓会の幕を閉じました。

最後に、現役川辺高校生も自然保護のボランティア

南九州市職員

川辺町神戈陵会

久松 広充
(昭和52年卒)



イア、川辺二日市への参加など他校にはみられない地域活動の様子を拝見し、「川辺高校よ、永遠に！」この思いを胸に、川辺高校の更なる躍進と同窓会の発展を願います。

本年度の総会及び懇親会は、六月四日、高校に程近い「ニューオカノ」において開催されました。

今年、「南九州市」誕生後初の開催となりました。総会は最初に十九年度の事業経過及び収支決算の報告、次に、本会の名称を「南九州市職員川

辺町神戈陵会」とする会則改正案、更に二十年度事業計画・収支予算・役員改選案がそれぞれ承認され、桑水流清美前会長

から下之蘭博幸新会長へバトンタッチされ、滞りなく議事を終えました。

終盤には、新たに顧問に就任されたOBの霜出勘平市長から、学生時代のエピソードや母校への熱い想いなどを交えた挨拶をいただきました。

引き続き開催された懇親会では、まず、来賓の前野同窓会会長から「母校活性化のための支援、二年後に開催予定の百周年記念事業への参加・

協力をいただきたい」との祝辞を賜り、次に、知覧神戈陵会上野勝郎氏及び額娃神戈陵会新原誠氏から「神戈陵会を引き継いでいくため、旧三町での協議を続けたい」との組織統合へ向けた力強い挨拶をいただきました。

宴会は、顧問の鶴田康夫副市長の快活な乾杯の発声で始まりました。母校から田中義博校長、長野・福森・蔵前・中尾・水溜・森先生の出席を賜り、校長先生から、川辺高校の現状、生徒の活躍の様子、高校再編の動向とその対応、母校への支援要請等について挨拶をいただきました。長野守雄先生から恒例となりました手作りの栞を今年もいただき、感謝申し上げます。会員の中には、勤務先が額娃・知覧庁舎に変わった人もあり、久々の再会とあって会場全体で会話が弾み、終始盛り上がり 있었습니다。

さて、皆様もご承知のとおり川辺町・知覧町・頤娃町の三町が平成十九年十二月一日に合併して、人口約四万二千人の「南九州市」が誕生しました。南九州市は、食糧供給基地の一翼を担い、製茶、焼酎、仏壇などの地場産業や磨崖仏、武家屋敷、特攻平和会館など歴史・文化資源にも恵まれ、

荒茶及びさつまいもの生産量では日本一の市となりました。余談になりますが、近年の焼酎ブームもあり、地元産の銘柄も知名度が上がっています。県外で活躍されておられる左党の方も「だいやめ」に、ふるさとの焼酎「寿」「八幡」「田倉」などを今一度愛飲されてはいかがでしょうか。また、市では、年間を通して楽しいイベントも開催されます。川辺の「二日市」「磨崖仏まつり」知覧の「かせだうち」「ねぶた祭りin知覧」頤娃の「全

いのゴツソイまつり」「全えいオープンゴルフ大会」などです。他にも紹介したいところですが紙面の都合もありますので、詳しい内容は南九州市ホームページで御覧下さい。

最後に、南九州市職員川辺町神戈陵会は、母校の活性化はもとより市飛躍のために、より一層組織の充実を図りながら新たな歴史を刻んでいきたいと思ひます。

南さつま神戈陵会

幹事長
西 浩二
(昭和48年卒)

私ども、南さつま地区神戈陵会は上東書三会長(昭和三十六年卒)を中心に平成一八年七月に発足し、今年で三回目の同窓会を開きました。昨年に続き、南さつま市内の中心部でレストランを経営する今村勝徳氏(昭和三十九年卒)のブルドッグにて総数三一名の先輩・後輩が集まりました。

今年、前野本部同窓会長、田中校長先生をはじめ政元教頭先生、長野・藏前・水溜先生と久松同窓会副会長に特別来賓として上東会長の同級生で南谷亘英東京同窓会監事

のご出席をいただきました。また、高木一夫(昭和一七年卒)大先輩を筆頭に貴島(昭和二六年卒)・堂園(昭和二七年卒)・汐満(昭和三八年卒)三名の女性の先輩が参加され、ますます盛況でありました。

はじめに、亡師亡友への黙祷のあと早速、新旧校歌の合唱で燃えてくるのを感じました。そして、上東会長のあいさつの後、前野会長から同窓会の活動状況、田中校長先生より学校の近況とこの席でないことと知ることのできない情報を聞いてし

だいに高校時代が蘇つてまいりました。

総会後、懇親会に入り、一年ぶりの再会、二年ぶりの再会、初めての出会いと先輩後輩が母校の縁で楽しく有意義な時間を過ごすことができました。改めて、感じましたこと



は、同窓会を盛り上げるために、同級生という横のつながりから拡げていくことが大事だと思います。

今後同窓会活動の活性化を目指しますが、各

同窓会の皆様にもまだまだ未熟な私どもの会へのご指導ご鞭撻をお願いし、報告に代えさせていただきます。



大倉野 貞俊
(昭和25年卒)

陵寿会は第三十回総会を賑やかに開催

今年の陵寿会は三月八日、例年通り三州倶楽部で第三十回総会を開催しました。郷里からは来賓として本部同窓会の森田剛副会長(昭和四十三年卒)、母校の宮園秀昭教頭(昭和四十六年卒)・長野守雄教諭(昭和四十二年卒)をお迎えしました。

今年も田口精一会員の提案で三年前から始めた「語ろう会」を午前十時から開催。来賓を交えた十五人の参加者が「故郷活性化と母校の将来を考える」というテーマで白熱の議論を交わしました。過疎化のため鹿児島交通が知覧・穎娃方面のバスを廃止しましたが、同窓会の補助金でバスを走らせ、何とか生徒の足を確保しました。また、少子

化で南薩地区の高校は軒並みに生徒数が減り、本年度も昨年同様、母校の入学希望者が定員に達しませんでした。先生方は「レベルアップこそ生き残る道だ」と頑張っているという話。「何か特色を持つべきではないか。例えば、同窓会が現在行っている奨学金制度を更に充実させ、南薩地区全体から人材を集めることを考える。」とか、「昨年も議論になった中高一貫校については『学区制』の障害があるというが、宮崎県は全国に先駆けて平成六年四月から全寮制の『県立五ヶ瀬中等教育学校(学区全県一区特例)』をスタートさせた。高千穂高校五ヶ瀬分校を脱皮させるという方法があったにせよ、地元町民の情熱はかつ目に値する」など。

それぞれに時間一杯、貴重な意見を述べて語り合いました。

正午から参加者が六十九名となり総会に移りました。本田雄郎東京同窓会長の挨拶に続き、宮園教頭が母校の入試合格状況や部活など活気ある現状と将来への展望を述べました。森田副会長からは母校の冷暖房装置化募金への協力をお願いしたいこと。昨年十二月には「南九州市」が新しくスタートしましたが、穎娃町がこの新市に加わったことは母校の将来にとっても明るい希望が持てることなどを話されました。

次いで、記念すべき三十周年に当たり、次の三氏に対して、現世話人大倉野貞俊から感謝状並びに記念品代が贈られました。大先輩の川野重任氏(文化功労者・東大名誉教授)。白石晃三氏(前陵寿会世話人)。市岡妙子氏

(元陵寿会世話人黒松竹男氏令妹)。三氏を代表して白石晃三氏がお礼のご挨拶を述べられました。

次いで懇親の宴に移り、ご来賓の長野守雄教諭の発声で乾杯。全員が満面に笑みを浮かべ、歓声を上げながら一年ぶりの再会を喜び合いました。会場では、来賓ご持参の「八幡」や例年薩摩酒造ご寄贈の「イモ焼酎」の栓が次々と抜かれ、「つけあげ」や川辺の「牛刺し・鳥刺し」も山盛りで、全員みな舌鼓を打ちながら故郷の味を噛み締めました。宴たけなわの中、恒例の「関東さつま南の会」の連中による「おはら節・はんや節」などが飛び込んできました。多数の会員も輪に入って踊りました。次いで、全員の集合写真や卒業年次別の写真

を撮り、最後に校歌斉唱で締めて散会しました。【註】陵寿会は東京同窓会員で六十歳以上の人達の集まりです。毎年三月に目黒の三州倶楽部で交歓会を開いています。来年(平成二十一年三月十四日(土曜日)の予定)はより多くのご参加をお願いいたします。



喜寿の集い

前橋 松造

(昭和25年卒)

青戸など

動員先を回る

平成十九年十月二十六・二十七日の両日、鹿児島を舞台に開いた。札幌在住の篠田徹男君ら全国各地から三十四名が参加。初日は川辺高校を訪問して授業参観。後輩たちの活発な学習ぶりに接した。

私たちの学年は旧制中学二年のとき少年義勇兵として、知覧町大隣岳の野戦砲陣地や顕娃町の青戸飛行場建設に駆り出された。この動員先の跡地を見学しながら、苦しかった戦時中の思い出を語り合った。



初日の夜は鹿児島市内の錦江高原ホテルで懇親会。同期生の物故者は六十五人を数える。まず亡師亡友の霊に黙祷を捧げた。川辺高校からは宮園秀昭教頭(当時)と長野守雄、水溜孝志教諭らを

招き、川辺高校の現況を聞きながら歓談した。翌日は笠沙路から秋目、久志、坊泊など薩摩半島西海岸を巡る観光ツ

二六会同窓会

上東 書三
(昭和36年卒)

一昨年の福岡での同窓会に続き、今回は地元での開催となりました。晴天に恵まれた平成十九年十月二十六日・二十七日、恩師一名を含め六十四名が参加しました。

今回の集いは、奇しくも、昭和二十五年卒の先輩方五十四名が同じ錦江高原ホテルでの会と重なり、桜島を眼前にした露天風呂での会話風景など印象深いものとなりました。当夜の宴席には、学校より宮園教頭先生、長野、水溜先生も駆けつけて下さり、今昔の話題に花を添えてくれ、大変有意義な時を共有できました。

ア。「また傘寿には集まろう。それまで元気で！」と声を掛け合って、鹿児島中央駅で別れた。

翌二十七日はホテルから金峰町を経由し、新川のサンセットブリッジや海浜公園を訪ね、

記念樹「錦木(にしきぎ)」を植え、案内板の取り付け・土寄せの儀式と記念撮影をしました。

学校側のご配慮に依り、音楽部の吹奏楽演奏と薙刀部による模範演技を体育館で見せて頂きました。卒業以来、初めての学校訪問となったほとんどの旧友達、素晴らしい贈り物を頂くことがで



神戈陵の一角に

きました。

母校での三年間を共に過ごした仲間が、三年後には奈良で、そして、古希を祝う会は静岡地区で行うことが合意され、それらの会が待たれることとなりました。

現在、母校では、田中校長先生、宮園教頭先生

を含め、七名の母校卒業生が四十四名の先生方と一体となつて次の世代を担う後輩たちに神戈陵魂を伝搬されています。母校の益々の発展を祈るばかりです。

神戈陵上

永遠に光あれ！

音楽部

吹奏楽団の歩み

顧問
福森 利孝

昭和二三年、鹿児島県川辺高等学校第一部（旧

なつた五四年に初めての金賞受賞。

中学校）及び第二部（旧高等女学校）が設立され、この年、合同の音楽部創部。翌二四年種子田孝蔵先生（現校歌作曲者）の下、管弦楽団の基礎が築かれ学校創立の昭和二五年オーケストラ演奏でNHKラジオ出演。合唱部・音楽部を経て、昭和五一年に吹奏楽部に衣替えし翌年に小編成（B）部門で吹奏楽コンクールに出場。A・B部門がなく

最近一三年間は連続金賞受賞し鹿児島県高等学校吹奏楽部の雄としてその名を轟かせ、平成九年に九州大会初出場。通算五回の九州大会出場を果たしている。また、県代表として全国高等学校総合文化祭に昨年の島根大会を含め二回の出場を果たし県内外に高い評価を得ている。

人ホームでの演奏や清掃・対話活動、地域内の小学校運動会でのランチタイム・コンサートなどボランティア活動にも積極的に参加している。

通算三三回におよぶボランティア活動を通し、豊かな心を培い育むことの大切さを生徒一人ひとりが感じ身につけてきている。

今後とも、“個性が光り感動できる音楽づくり”と、“勉強と部活動の両立を図り”、“知・徳・体の調和の取れた心身壮健で創造性に富む人間形成”を目指していきたい。

平成二〇年度は、川辺高校生徒の約六割の七二名が音楽部吹奏楽団で活躍しており、学区内の中学生や保護者からも「川辺ブランドの吹奏楽部」と言われる

までに成長してきている。創立百十周年に向けてさらに飛躍を続けていきます。今後ともますますのご支援をお願いします。

第三一回 定期演奏会を終えて

音楽部吹奏楽団

部長 瀬戸 賀代

五月二五日（日曜日）、第三一回音楽部吹奏楽団定期演奏会が行われました。

今年も昨年に続き、南九州市内外から多くの皆様にご来場を賜り、演奏会を盛り上げていただきました。

また、今年は顧問の福森利孝先生が還暦を迎えられることもあり、第一ステージでは一八名のOB・OG参加での合同演奏が実現しました。私たち部員にとっても先輩方と久しぶりに親しく演奏できる良い経験となりました。

第二ステージの小編成によるソロ・アンサンブル演奏では、オーボエ、クラリネット、サクソフォーンの美しい響きを会場内に響かせることがで



きました。また、三年生による演奏も少ない練習時間にもかかわらず音楽を心から楽しめました。

第三ステージでは福森先生の還暦サプライズとして、先生の好きなビートルズの「LET IT BE」を赤いちゃんちゃんこを着て指揮をしていただきました。恥ずかしがり屋の先生ですが、部員や保護者会の気持ちに大切に汲み取り快く引き受けて頂き、心に残る演奏となりました。

第四ステージは、本年度のコンクール課題曲「ブライアンの休日」と自由曲「トウーランドット」を演奏しました。県大会まで二カ月を残しての演奏であり、多くの課題も見つかりましたが、素晴らしい音色とハーモニーを会場内に響かせ、緊張感のある感動溢れる演奏となりました。

三年生にとり最後の定期演奏会でしたが、周り

の多くの人々に支えられ無事に終了できました。この心から感謝申し上げます。

名誉顧問として音楽部吹奏楽団を物心両面から支えてくださる医療法人菊野会・副院長菊野竜一

伝統を受け継いで

顧問
栢元 陽子

今回、「なぎなた部」の活動について原稿を依頼され、まだ「川辺高校なぎなた部」の歴史、伝統を知らない私は、正直なところ困ってしまいました。考えた末、まずは創立百周年記念誌を拝読しました。そして、伝統あるなぎなた部の歴史は、

鰺坂節代先生や黒川久子先生をはじめ、多くの先生方と卒業生の情熱、そして、優しさで築きあげられたのではないかと感じました。その先生方、卒業生の根本にあつたものは「なぎなたの理念」である「なぎなたの修練に

郎先生や、保護者会の皆様、そのほか多くの皆様のお力添えで活動できる幸せを味わっています。

これからも、このご恩を忘れずに頑張っていきたいと思っています。

より、心身ともに調和のとれた人材を育成する」だと思っています。

試合等における目先だけの結果にこだわらず、日々の稽古のあり方や日常生活での態度を大切に、目標に向かって努力すること、継続することの素晴らしさを確固たる信念で教え、導いて下さったからこそ、今なお「川辺高校なぎなた部」が存続しているのだと思います。このような伝統あるなぎなた部の顧問として、生徒たちと共に汗を流せることに心から感謝いたしております。

私は、今年四月に川辺高校へ赴任いたしました。初めて生徒と一緒に稽古をするとき、三年生部員八名となぎなた部の目標を決めました。

それは、インターハイ「優勝」です。はじめ生徒は「ベスト8」を目標にしていたのですが、せっかく出場できるなら、挑戦するならば、私は生徒と「優勝」を目指したいと思いました。又、生徒に「ベスト8に入れたら」という控え目な気持ちが見えませんでした。大切なことは、「自分を信じて、精一杯取り組み」と、「何事もやってみなければ分からない」ということを伝えなかったからです。私自身、これらのことを「なぎなた」を通じて学ぶことが出来ました。

縁あって出会うことができた生徒ひとり一人の長所を伸ばしつつ、「川辺高校なぎなた部」の伝統



を受け継ぎ、どんな困難にも屈しない、社会に貢献できる人材を育成する「日本一のなぎなた部」を目指したいと思っています。指導者としてまだまだ未熟ですが、多くの先生方、卒業生のご指導を仰ぎながら日々の稽古に励んでいきたいと思っています。最後になりますが、遠征先におきまして各地同窓会より、栄養会や援助をいただいております。たくさんの方々の想いに心よりお礼申し上げます。

文化祭

七月十一日

(金)、川辺高校第六十回文化祭が開催されました。今年も例年通り、南九州市川辺文化会館でステージ部門が、川辺高校でバザーとクラス展示が行われました。一学期期末考査が終わってすぐのこの時期。準備期間は約十日…。非常に時間の無い中で、生徒たちはクラス一丸となってそれぞれ素晴らしい作品を仕上げていました。

今回は南九州市になって初めての文化祭でした。市内全域に広域放送で告知をしたところ、多くの保護者や地域の方々が見に来てくださり、百部以上用意してあった来客用のパンフレットはあっという間になくなってしまうしました。

文化祭は、文化系の部活動や授業活動の発表の

場でもあります。文化会館のロビーには、美術や書道の作品が並べられ、日ごろはなかなか見る機会のない友人の作品に生徒たちは足を止めて見ていました。また、毎年コンクールで金賞を受賞している音楽部の演奏は素晴らしい、ひととき大きな拍手に包まれました。

クラスの強い絆を感じさせるダンス。また、一瞬にして全校生徒を笑いに包みこんだ吉本風の劇や、大好きな先生をうまく登場させた感動の劇。三年生の派手なパフォーマンスに、観客席は大いに盛り上がっていました。

展示作品では、担任の顔やムンクの「叫び」、今年大人気の篤姫などのモザイク画や、かわなべ祇園祭によせて御輿を制作するなど、どのクラスの作品も見応えのある大作でした。

また、生徒の昼食を兼

ねたバザーでは、暑さのせいかわジュースやアイスが飛ぶように売れ、即完売状態でした。クラスの個性と若い柔軟なアイデアで、どのクラスも楽しい店になっていました。川辺高校生の生き生きとした姿に、神戈陵魂は今も健在！と実感する一日でした。



鹿児島同窓会

木原 彬成
(昭和36年卒)

平成二十年度の鹿児島同窓会神戈陵のつどいが七月二十六日(土)にジエイドガーデンパレスで約百名出席のもとで開催されました。来賓として

川辺同窓会東眞宏副会長、母校から田中義博校長、長野・藏前・中尾先生、吉留康貴ジエイドガーデンパレス社長のご参加をいただきました。

今年度は幹事として、昭和三十・四十・五十年卒の皆さん方につどいの会の運営をしていただきました。総会の部の司会を

三十年卒の山下穂九郎さんにお願ひし、最初に亡師・亡友へ黙とうを捧げました。開会のあいさつを三十年卒の溝口逸王さんが行い、総会に参加してよかったと思えるような会にしたいとの決意表明がありました。また、

池田弘鹿児島同窓会会長が、「長生きすることはいいことである。学校を創立するときの信念にも神戈陵精神が生きている」と挨拶されました。

祝辞として、東眞宏川辺同窓会副会長より、創立百十周年事業や生徒確保に対する取り組み等の紹介がありました。次に田中校長からは学校の状況について、生徒・職員も懸命に頑張っているとの報告、長野先生より学校の現状と同窓会活動の報告がなされました。

総会の承認事項の決議で、新会長に椎原耕氏(昭和二十六年卒)、副会長に前橋松造氏(昭和二十五年卒)、名誉会長に池田弘氏(昭和二十三年卒)を選出し、満場一致で承認されました。池田会長から辞任にあたり、過ぎ

し日も今も、明日も、わが胸に神戈陵は生き続ける。名誉会長という立場からも協力するとのこと言葉をお聞きいただきました。椎原新会長は、多くの意見を聞きながら同窓会を盛り上げていきたいとの抱負を語られました。前橋新副会長は、百十周年に向けて会長を補佐して頑張りたいと述べられました。新役員のご活躍を期待したいと思います。

四十年卒の安楽幸良さんの司会により懇親会が始まりました。三十年卒の本田武郎さんの、百八年の歴史ある学校が、同窓会が、ますます発展するようにとの力強い乾杯のご発声により懇親会が始まりました。二十八年卒の大迫晶子さんには祝儀の舞を華やかに、優雅に舞っていただきました。

懇親会では、自席や、自席を離れてそれぞれのテーブルで旧交を深めていました。同級生、先輩、

後輩と入り混じって酒杯を酌み交わす姿を見る時に、さすがは川辺高校鹿児島同窓会一致団結の姿である、とても嬉しく思いました。

余興では、三十年卒の皆さん、四十年卒の皆さんの出し物で盛り上がり、三十五年卒の柚木清紀さんの恒例の股旅物、マドロスの出し物でにぎやかになりました。五十年卒の皆さんの出し物の俳句・狂句大会もとても盛り上がりしました。多数の出品作品の中から、一席は「古希迎え 今なら言える 好きだった」(フランダース)、二席は「あいながてか またおがなった同窓会」(三十七年卒)であつたことを報告します。

宴もたけなわの中で、三十・四十・五十年卒の皆さんがステージに登壇し、旧制中学校校歌、新制高校校歌を全員で声高らかに斉唱しました。五十年卒の鶴田牧男さん

は、「鹿児島同窓会是不滅である」とともに声をあげた万歳三唱、三十年卒の野添悦子さんの、「出し物の練習をたくさんやって幹事として皆がまとまっていい経験をさせてもらった。来年も元気な顔でお逢いしましょう」との閉会のあいさつで、神戈陵のつどい(懇親会)の幕を閉じました。

盛会のうちに、鹿児島同窓会の集い(総会・懇親会)を終了したことを心より感謝申し上げます。最後に母校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



事務局だより

事務局長 長野守雄

一 平成二十年度「同窓会育英奨学生」変更報告

平成十六年度から、地域のきわめて優れた資質を有する生徒の母校への入学が一段と促進されることを願い、月額一万円の育英奨学金を給付し、川辺高等学校の英才育成と人材確保に寄与してきた同窓会育英奨学金制度は、次の事情から廃止されました。

税法の改正により今までの「財団法人神戈陵教育振興会」の存続が難しくなることが想定され、昨年の十一月二十六日に財団法人神戈陵教育振興会精算人会議を開き、三千二百三十八万八千三百四十円を旧川辺町へ寄付しました。(各地区同窓会の会長様方には文書で連絡し承認を得ました。)

前記の寄付金は新たに南九州市より母校の活性化

の基金として、新たに設立した任意団体「神戈陵教育振興会」へ毎年計画的に補助金として交付予定です。同窓会育英奨学金事業は今後神戈陵教育振興会へ移行されることとなります。生徒たちには市からの補助として新たに「神戈陵育英奨学金」が今後ずっと渡されることとなります。

二 各地区・各年度同窓会の開催

恒例の各地区同窓会は昨年度も盛会の中に終了しました。八月川辺同窓会、九月関西同窓会、十月東海同窓会(隔年ごと)に実施で、今年度は行われる予定)と福岡同窓会、一月宮崎同窓会、三月陵寿会、六月旧川辺町役場神戈陵会(南九州市職員神戈陵会になる予定)、七月南さつま地区神戈陵会

と鹿児島同窓会が実施され、各地区の同窓会の様子は前述(各地区の報告)のとおりでした。熊本同窓会と枕崎・坊津地区神戈陵会の予定が立っていないのがやゝ心残りです。

各年度の同窓会も活発で、同窓会報や川辺高校概況報告等をお送りしました。昨年十月には、錦江高原ホテルで同時に二つのグループ(昭和二十五年卒と昭和三十六卒)が同窓会を行い、私たちが事務局も参加させていただきました。十一月には昭和二十九年卒の方が城山観光ホテルで同窓会を実施しています。またその際、学校の方へも足を運んでいただき、生徒の授業風景や神戈陵と校庭の散歩を楽しんでいただきました。数学の授業風景では、昔の自分とダブらせて幾何や代数を思い出している人たちもあり、神戈陵に登った人たちの中には昔との変容にびっ

くりされている人もいました。また、五月には、南九州市川辺文化会館で恒例の第三十一回音楽部定期演奏会が行われ、満席で立ち見の観客が多数いるほどの盛況でした。

三 援助

① 毎年東京同窓会より、卒業生全員へボールペンをいただいている。

② なぎなた部は大阪でのインターハイや春の大会で、関西同窓会に多額の援助金をいただきました。

③ 南九州市川辺町職員神戈陵会から十五万円を音楽部の全国総合文化祭(十九年度)出場に援助していただいた。

④ 長崎の中村末子様より後輩の生徒のためにという事で同窓会へ寄付金をいただいた。

⑤ 昭和三十六卒の方からは学校訪問の際、音楽部へ三万円、なぎなた部へ三万円そして同窓

会へ五万円の寄付金をいただいた。

⑥ 前野政美同窓会長や菊野光郎前会長からは、各種に渡る多額の援助金や学校職員への物心両面に渡る援助をいただいた。また、本部同窓会への出席をお願いする地元新聞への折込代金も前野同窓会長が負担してくれている。

⑦ 卒業式や前日の同窓会入会式に、各地区同窓会よりメッセーじをいただいた。また、川辺の役員の皆様にも御出席いただき、卒業生の門出を祝福していただいた。



川 辺 高 等 学 校 同 窓 会

収入の部

平成19年度 収支決算書

(H. 19. 8. 1~H. 20. 7. 31)

費 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減	備 考
入 会 金	200,000	150,000	△ 50,000	新入生 1,000×150人
会 費	398,000	398,000	0	卒業生 2,000×199人
総 会 収 入	400,000	455,500	55,500	参加費 寄付
繰 越 金	356,084	356,084	0	
繰 入 金	1,580,000	1,580,000	0	
雑 収 入	916	119,192	118,276	寄付(三六会、中村氏、前野氏)、他
計	2,935,000	3,058,776	123,776	

支出の部

費 目	予 算 額	流用額	予算現額	決 算 額	不要額	備 考
総 会 費	400,000	55,500	455,500	455,500	0	懇親会代、チラシ折込代
需 用 費	100,000	0	100,000	78,750	21,250	同窓会報印刷代他
通 信 費	20,000	0	20,000	11,600	8,400	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	0	100,000	75,000	25,000	転退職者記念品代、他
旅 費	600,000	0	600,000	544,990	55,010	東京、関西、福岡、宮崎他旅費
負 担 金	285,000	0	285,000	220,000	65,000	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	1,270,000	△ 55,500	1,214,500	820,000	394,500	奨学金、通学バス代他
雑 費	140,000	0	140,000	124,574	15,426	各地区同窓会へ土産代他
予 備 費	20,000	0	20,000	0	20,000	
計	2,935,000	0	2,935,000	2,330,414	604,586	

収入済額 - 決算額

3,058,776 - 2,330,414 = 728,362円 残額は来年度への繰越金

特別基金

平成20年7月31日現在

5,169,587円

内 訳 3,059,601 鹿児島銀行分

2,109,986 鹿児島相互信用分

収入の部

平成20年度 収支予算書 (案)

(H. 20. 8. 1~H. 21. 7. 31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	200,000	200,000	0	新入生 1,000×200人
会 費	298,000	398,000	△ 100,000	卒業生 2,000×189人
総 会 収 入	400,000	400,000	0	同窓会総会参加費
繰 越 金	728,362	356,084	372,278	
繰 入 金	230,000	1,580,000	△ 1,350,000	定期の取り崩し 他
雑 収 入	8,638	916	7,722	利息他、寄付
計	1,865,000	2,935,000	△ 1,070,000	同窓会奨学金を支給する必要がなくなったため

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
需 用 費	100,000	100,000	0	同窓会報印刷代
通 信 費	20,000	20,000	0	はがき、切手代
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職者記念品代 他
旅 費	600,000	600,000	0	東京、関西、福岡、宮崎他
負 担 金	285,000	285,000	0	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	200,000	1,270,000	△ 1,070,000	講演謝礼 中高連絡会
雑 費	140,000	140,000	0	各地区同窓会へ焼酎、土産代他
予 備 費	20,000	20,000	0	
計	1,865,000	2,935,000	△ 1,070,000	同窓会奨学金を支給する必要がなくなったため

各地区同窓会連絡先				事務局 川辺高等学校 〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田 4150	TEL 0993-56-1151 FAX 0993-56-1152
川同窓会	川同窓会	川同窓会	川同窓会	川同窓会	川同窓会
東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会
東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会	東同窓会
関同窓会	関同窓会	関同窓会	関同窓会	関同窓会	関同窓会
福岡同窓会	福岡同窓会	福岡同窓会	福岡同窓会	福岡同窓会	福岡同窓会
熊本同窓会	熊本同窓会	熊本同窓会	熊本同窓会	熊本同窓会	熊本同窓会
宮崎同窓会	宮崎同窓会	宮崎同窓会	宮崎同窓会	宮崎同窓会	宮崎同窓会
鹿児島同窓会	鹿児島同窓会	鹿児島同窓会	鹿児島同窓会	鹿児島同窓会	鹿児島同窓会
南さつま地区同窓会	南さつま地区同窓会	南さつま地区同窓会	南さつま地区同窓会	南さつま地区同窓会	南さつま地区同窓会
知覧地区同窓会	知覧地区同窓会	知覧地区同窓会	知覧地区同窓会	知覧地区同窓会	知覧地区同窓会
枕崎地区同窓会	枕崎地区同窓会	枕崎地区同窓会	枕崎地区同窓会	枕崎地区同窓会	枕崎地区同窓会

結成予定 鹿屋地区同窓会・川内地区同窓会・指宿地区同窓会・加治木地区同窓会